

## 助産師が性教育で生徒に伝えたい思い

平田知子<sup>1)</sup>\*・四宮美佐恵<sup>2)</sup>・安田陽子<sup>2)</sup>・高尾 緑<sup>2)</sup>・新居涼子<sup>3)</sup>

1) 新見公立大学健康科学部看護学科 2) 新見公立大学助産学専攻科 3) 一般財団法人 倉敷成人病センター  
(2021年9月22日受付、11月17日受理)

本研究の目的は、助産師が性教育を通じて生徒に伝えたい思いを明らかにすることである。対象は、「性教育についての講演」の経験がある助産師3名とした。本研究への同意のもと半構造化面接を行い、逐語録を作成したのち内容分析を行った。分析の結果、助産師が性教育で生徒に伝えたい思いは【命の尊さ】【思春期の性と特徴】【心と体と性の多様性】【自分で考え解決して行動する力】【性に関する専門知識】【生きていくために必要な知識と力】の6カテゴリーが生成された。助産師は、思春期の生徒の特徴を踏まえて、生徒と同じ目線で一緒に考えること、彼らが幸せになることを一番考えていた。自分は性の多様性の中の一人であり自他の違いを認め合うこと、自分と相手の心と体を守ることの大切さと命の尊さを伝えながら、人が生きていくために必要な性に関する知識と生きる力を伝えたいと思っていることが明らかになった。

(キーワード) 性教育、助産師、思春期

### 1. はじめに

思春期の性に関する問題は様々であり時代とともに変化している。1990年代以降、性的経験の早期化と性的経験率の上昇は続いており、2005年以降では女子の性行動が活発化している。SNSの普及をはじめとした情報化の進展に伴い性情報が氾濫していることが背景にあると指摘されている<sup>1)</sup>。また、10代の人工妊娠中絶件数は減少している<sup>2)</sup>ものの、15歳未満の出生数は減少しておらず高止まりしている傾向にある<sup>1)</sup>。特に10代の妊娠では、妊娠に関する基礎的な知識がないために妊娠の発見が遅れるケースもあり、社会や学校での孤立、困難を抱えた家庭環境、家庭に居場所がないことなどの要因が大きく関与していると指摘されている<sup>3)</sup>。さらに、性感染症については、10代の罹患率は減少傾向が続いているものの、梅毒の感染報告数が2013年から急増しており適切な対応が必要だと指摘されている<sup>4)</sup>。このような思春期の性と健康問題については、厚生労働省の「健やか親子21(第2次)」の主要課題の1つとして「学童期・思春期から成人期に向けた保健対策」があげられ、子どもが主体的に取り組む健康づくりの推進と次世代の健康を育む保健対策の充実が求められている<sup>3)</sup>。

現在の日本における性教育は文部科学省の学習指導要領に基づいており、主に学校保健において体系的に取り組まれ、家庭や地域の連携しながら学習を進めている<sup>5)6)</sup>。中学校の教員の性教育実施率は増加してきている<sup>7)</sup>が、中学校・高等学校で性教育を担当している教員は生徒から性

の相談を受ける機会が少なくないものの、性に関する指導に困難感を抱えていることが分かっている<sup>8)</sup>。性教育は学校だけではなく家庭でも行われる必要があるが、保護者は家庭内での性教育の必要性を認識しているけれども実施できていないのが現状である<sup>9)</sup>。一方で性教育を受ける側では、高校生では適切な性教育授業担当者として養護教諭、性教育の専門家、助産師・保健師を希望しており、生徒は妊娠や性感染症などの性や生殖に関連する問題については、その専門性から専門職からの教育を希望することが分かっている<sup>8)</sup>。

助産師は周産期からその後まで母子とその家族に日常的に深く関わる職業であり、性と生殖に関する知識を有することから、学校教育の現場での外部講師として性教育の授業を依頼されることが増えている<sup>7)10)13)</sup>。助産師を含む専門家が性教育に深く関与することで、その内容がより充実することが期待されている。中学生・高校生とその保護者や担当教員の性教育に関する意識調査や実態調査<sup>7)8)11)12)</sup>はみられるが、性教育を実施する際の助産師の意識や思いについての研究はあまり見られない。

本研究では、助産師が性教育を行なう上で重要視することや伝えたい思いを明らかにし、助産師が性教育を行う意義や今後の性教育への示唆を得ることを目的とする。

### II. 研究方法

#### 1. 研究デザイン

本研究は質的記述的研究である。

\*連絡先: 平田知子 新見公立大学健康科学部看護学科 718-8585 新見市西方1263-2

## 2. 研究対象

A病院に勤務している助産師とし「性教育についての講演」などを含めた性教育の経験がある3名を対象とした。

## 3. 調査期間

2020年10月～2021年3月

## 4. データ収集方法

研究対象者に本研究の研究内容を説明し同意を得たのち、プライバシーを確保できる個室にて、研究者が独自に作成した調査票とインタビューガイドに基づき半構造化面接を行った。インタビューは1人1時間以内とした。面接内容は研究対象者の許可を得てからICレコーダーに録音し、逐語録を作成した。

## 5. 分析方法

作成した逐語録を熟読して内容分析を行った。意味内容のまとまりに着目してコード化を行い、コードの類似性に基づき、サブカテゴリーを構成し、カテゴリー化を行った。サブカテゴリーとカテゴリーの分類結果は、分析過程で母性看護学・助産学の研究者、質的研究の経験者として意見が一致するまで検討を行うことにより信頼性と妥当性の確保に努めた。

## III. 倫理的配慮

本研究の主旨、目的、方法、結果の公表、研究協力は自由意思であり協力しなくても不利益を被らないこと、同意後でも随時協力を撤回できること、個人情報の保護に関することについて口頭と文章で説明した。研究協りに同意が得られる場合は、同意書への署名を求め、同意を得た。インタビュー時は個室を利用しプライバシーの確保に努め、研究対象者の同意を得てから録音した。本研究は新見公立大学倫理審査委員会での承認を得て実施した（承認番号：199号）。なお、本研究における利益相反は存在しない。

## IV. 結果

### 1. 対象者の属性

A病院に勤務している助産師3名を対象とした。年齢は35-40歳代2名、60-65歳代1名である。助産師歴は15-20年が2名、35-40年が1名であった。3名とも小学校や中学校での「性教育についての講演」の経験があった。

### 2. 助産師が性教育で生徒に伝えたい思い

助産師が性教育で伝えたい内容を分析し、抽出されたコードは265あった。コードの類似している内容を13のサブカテゴリーに分類した。さらに、【命の尊さ】[子どもが幸福になること][他の人を大事にすること][自分の体と心を大事にすること]からなる【命の尊さ】、【思春期の性】[思春期の特徴]からなる【思春期の性と特徴】、【体の多様性】[心の多様性][性の多様性]からなる【心と

体と性の多様性】、【自分で考え解決して行動する力】、【性に関する専門知識】、【生活の一部としての性】[生きていくために必要な知識と力]からなる【生きていくために必要な知識と力】の6つのカテゴリーが抽出された(表1)。なお、カテゴリーを【 】、サブカテゴリーを[ ]とする。

### 2-1. 【命の尊さ】について

【命の尊さ】は【命の尊さ】[子どもが幸福になること][他の人を大事にすること][自分の体と心を大事にすること]の4つのサブカテゴリーで構成した。助産師は命の誕生に携わる経験から培われた【命の尊さ】を重要視しており、分かりやすい言葉や態度で生徒に伝えたいと考えていた。さらに、生まれてきた理由として[子どもが幸福になること]をあげていた。自らが望まれた大切でかけがえのない存在であり、幸せになるために生まれてきたことを伝えることで、生徒が【自分の体と心を大事にすること】に気づいて行動することが【他の人を大事にすること】になり、最終的には自分と相手の性を大切にするにつなげると考えていた。

### 2-2. 【思春期の性と特徴】について

【思春期の性と特徴】は【思春期の性】[思春期の特徴]の2つのサブカテゴリーで構成した。助産師は第二性徴などの身体面、葛藤や悩みなど精神面の【思春期の特徴】を自然なことであり【思春期の性】には個人差があり画一的に決められるものではないと捉えていた。生徒が肯定的に性を捉えられるように基本的な知識と一緒に【思春期の性と特徴】を伝えたいと考えていた。

### 2-3. 【心と体と性の多様性】について

【心と体と性の多様性】は【体の多様性】[心の多様性][性の多様性]の3つのサブカテゴリーで構成した。助産師は身近な例を挙げながら、体と心が多様であるように、性も多様であることや多様であることが自然なことであることを重要視していた。性教育を通じて、助産師も生徒も多様性の中の一人であることを感じてもらいたいと考えていた。

### 2-4. 【自分で考え解決して行動する力】について

【自分で考え解決して行動する力】は【自分で考え解決して行動すること】の1つのサブカテゴリーで構成した。助産師は若年妊娠や人工妊娠中絶などの性に関する問題を解決するためには、自らが考えて行動する力が必要と考えていた。思春期を生徒が成人になるための修業期間と捉えていた。自分の性の問題を生徒自身が認識して、問題が生じたときに、その解決のために自らが考えて行動する能力をもつ必要があることを生徒に伝えたいと考えていた。

### 2-5. 【性に関する専門知識】について

【性に関する専門知識】は【性感染症について】の1つのサブカテゴリーで構成した。妊娠、人工妊娠中絶、性感染症など性に関わる知識を身に付けておくことが、正しい性の理解につながると考えていた。

## 2-6. 【生きていくために必要な知識と力】について

【生きていくために必要な知識と力】は〔生活の一部としての性〕〔生きていくために必要な知識と力〕の2つのサブカテゴリで構成した。助産師は性を否定的なものではなく人間として自然に生じるものであり〔生活の一部としての性〕として捉えていた。同時に、日常生活には様々な性に関する犯罪などの危険性があるため、生徒が心と体を自ら守ることも重要視していた。そのためには早いうちから【生きていくために必要な知識と力】を習得できるように、性教育を通じて生徒が自らの性や生き方について考える機会をつくっていた。性教育を生きるための教育と捉え、生徒に価値観を押し付けることなく、自ら考える力をつけてほしいと考えていた。

## V. 考察

本研究では助産師が性教育で生徒に伝えたい内容について分析した。その結果【命の尊さ】【思春期の性と特徴】【心と体と性の多様性】【自分で考え解決して行動する力】【性に関する専門知識】【生きていくために必要な知識と力】の6つのカテゴリが抽出された。これらの内容を基に、思春期にある青少年に対する性教育において助産師が何を伝えたいと思っているのかについて助産師が性教育を行う意義について考察を述べたい。

### 1. 助産師が性教育で伝えたい思い

助産師は、臨床の場で周産期の女性とその家族に寄り添いながら関わることを重視している。性教育においても、【思春期の性と特徴】【心と体と性の多様性】の中で生徒の成長に応じた特徴を踏まえて成長発達を予測しつつ、生徒と同じ目線で一緒に考えていたことや、性の多様性を自然なこととして認めており、その人の多様な価値観を認めていた。さらに、〔子どもが幸福になること〕に見られるように、生徒が幸せになることを一番考えていたことから、対象に寄り添い支援する助産師ならではの経験から培われた視点が性教育の根底にあると考えられる。また、【命の尊さ】や【生きていくために必要な知識と力】を重要視していることから、生まれてくることの素晴らしさや尊さを生徒が感じて、自分の心と体を大切に思い行動することが、他者を大切にすることにつながり、自他の性を尊重する行動につながると考えていた。文部科学省の新学習指導要領では、学校における性に関する指導は学習指導要領に基づき、生徒が性に関して正しく理解して適切に行動を取れるようにすることを目的としている<sup>5) 6)</sup>。生徒の発達段階を踏まえて、心身の発育・発達と健康、性感染症の予防などに関する知識を身に付けること、命の尊重や自己および他者の個性を尊重するとともに、望ましい人間関係を構築することなどを重視して、相互に関連づけて指導することが盛り込まれている<sup>14) 15)</sup>。また、四宮らの大学生への調

査で、学生が発達段階を踏まえた心身の発育・発達と健康に関する知識を身に付け、命の尊重、性行動のあり方について学んでいたことを明らかにしている<sup>16)</sup>。本研究でも【命の尊さ】【性に関する専門知識】【自分で考え解決して行動する力】など助産師が性教育で重要視している内容が学校での性教育の内容と概ね一致していた。助産師は学校教育の方針をとりいれつつ、思春期の特徴が性行動につながるため、成長発達の段階から適切な知識を伝える必要性を感じていると推察される。さらに、これまでの自身の経験から得られた性に対する思いや価値観に基づき、性を日常生活の延長にあるような自然なものとして捉え、生徒の発達に応じて一人ひとりに適切な性の知識を伝え、生徒自身が考えて行動できる力を身に付け、幸福になることを強く望んでいた。

### 2. 助産師が性教育を行う意義

本研究では、助産師は【命の尊さ】【思春期の性と特徴】【心と体と性の多様性】【自分で考え解決して行動する力】【性に関する専門知識】【生きていくために必要な知識と力】を生徒に伝えたいと考えていた。岡部らの研究では、大学生が受けてきた性教育を「理解できた」とする者は82.8%、「役に立った」とする者が46.2%いたこと、高校時代にもっと聞きたかった内容として「性感染症」「妊娠」「異性の心理と異性との付き合い方」「人間としての生き方」が多かったことを明らかにしている<sup>17)</sup>。本研究で明らかになった助産師が性教育で伝えたい思いは、高校生の性に関するニーズを満たすものである。また、松岡らは高校生とその保護者への調査で、保護者は性教育を家庭で行うことに戸惑いや難しさを感じており、家庭内での性教育の必要性を認識しながらも、約半数の保護者がまずは学校で行ってほしいと考えていることを明らかにしている<sup>18)</sup>。さらに、学校教育の場では、性に関する教育の必要性を感じる教員は存在するが、時間的制約や自信のなさ、性に関する問題を扱うことに抵抗を感じており、性教育の実施を躊躇する傾向もあることから、教員らは、「性教育に専門家を導入すること」「専門機関との連携」など、性に関する専門家を学校に配置することや専門家による性教育や対応を求めている<sup>19)</sup>。しかしながら学校教育の場と助産師などの専門家とは性教育の実施前の打合せで会う程度であり、継続した関わりが十分にできていない<sup>20)</sup>。助産師は性に関する専門知識を有し、個人や集団を対象に保健指導や健康教育を実施する機会が多いため、保護者や教員が踏み込みにくい性に関する問題や知識について思春期の生徒の特徴を踏まえて支援することが可能と考える。生徒一人ひとりが命の尊さを感じ、性に関する基本的な知識を身に付けて、自らの生きる力を養っていくためには継続的な関わりが必要である。保護者や教員が性教育への戸惑いや難しさを感じている現状を少しでも改善していくためにも、助産師の臨床の場での経験をもとに培った相手の幸福を願う暖か

い視点で、性の知識や命の誕生を通じて性に関する問題を肯定的に捉える意識づけを行い、自ら生きていく力を伝えていくことは今後もますます重要になると思われる。

## VI. 結論

本研究では、助産師は【命の尊さ】【思春期の性と特徴】【心と体と性の多様性】【自分で考え解決して行動する力】【性に関する専門知識】【生きていくために必要な知識と力】を性教育を通じて生徒に伝えたいと考えていた。それらは助産師の自らの臨床経験から得られた経験に裏付けされた思いであり、生徒の幸福を願う暖かい思いでもあった。性教育を人が生きていくための教育と捉え、思春期の青少年の特徴を踏まえて、性の知識や命の誕生を通じて性に関する問題を肯定的に捉える意識づけを行い、自ら生きていく力を伝えていくことは今後もますます重要になると思われる。

## VII. 本研究の限界と今後の課題

本研究では、助産師が性教育で生徒に伝えたい思いを明らかにしたが、同一施設の助産師3名から得られた結果であるため一般化には限界がある。今後の課題として、中学校・高等学校では助産師などの専門家だけでなく教員も性教育を行うため、保健師など助産師以外の専門職や教員のデータを積み重ねて研究を継続し、より妥当性の高い研究成果を提示していきたい。

## 謝辞

本研究の実施にあたりインタビューにご協力くださいました助産師の皆様、並びに研究実施において協力を頂きました研究協力者の皆様に心より感謝いたします。

## 文献

- 1) 財団法人日本性教育協会編：「若者の性」白書－第8回 青少年の性行動全国調査報告－, 小学館, 2019
- 2) 厚生労働省:令和元年度衛生行政報告例の概況 (2021.2.18) 6母体保護関係, [https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/eisei\\_houkoku/19/dl/gaikyo.pdf](https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/eisei_houkoku/19/dl/gaikyo.pdf)
- 3) 厚生労働省:「健やか親子21 (第2次) 中間評価等に関する検討会」報告書 (2019.8.30), <https://www.mhlw.go.jp/content/11901000/000614300.pdf>, (検索日: 2021.7.31)
- 4) 厚生労働省: 性感染症報告数 (2004年～2019年), 年齢 (5歳階級) 別にみた性感染症 (STD) 報告数の年次推移, <https://www.mhlw.go.jp/topics/2005/04/tp0411-1.html>, (検索日: 2021.7.31)

- 5) 文部科学省:中学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 保健体育編, [https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/1387016.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1387016.htm), (検索日: 2021.7.31)
- 6) 文部科学省:高等学校学習指導要領 (平成30年告示) 解説 保健体育編, [https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/1407074.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1407074.htm), (検索日: 2021.7.31)
- 7) 島田友子: 中学校教員の性の健康教育に対する意識と課題, 名桜大学総合研究, 26, 85-94, 2017
- 8) 榎谷亜希子, 篠木絵理, 藤井可苗他: 高校生の性と性教育に対する教員の意識, 北海道医療大学看護福祉学部紀要, 16, 69-73, 2009
- 9) 宍戸章, 齋藤益子, 木村好秀: わが国の家庭での性教育に関する研究の動向と今後の課題, 思春期学, 25 (3), 337-349, 2007
- 10) 半澤ハル子, 太田操, 渡邊恵美子他: 助産師が行う生命の教育に関する検討 小学校教員が望むサポート体制の調査から, 母性衛生46, 173, 2005
- 11) 松岡真理子, 入谷仁士, 山梨八重子他: 高等学校における性教育に関する一考察: 高校生とその保護者を対象とした意識調査より, 熊本大学教育実践研究, 29, 77-86, 2012
- 12) 本多正尚, 小澤真希, 鈴木涼子他: 小・中・高校生に対する性教育の実態とその評価, 琉球大学教育学部紀要, 71, 159-16, 2007
- 13) 古川洋子, 高橋里亥: 助産師が学校で行う性教育に関する実態調査, 滋賀母性衛生学会誌, 10 (1), 17-22, 2010
- 14) 文部科学省: 中央教育審議会, 学校教育活動全体で取り組むべき課題について, [https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/attach/1395097.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/attach/1395097.htm), (検索日: 2021.7.31)
- 15) 文部科学省: 学校における性に関する指導について-エイズ・性感染症を中心に-, <https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-10601000-Daijinkanboukouseikagakuka-Kouseikagakuka/0000152909.pdf>, (検索日: 2021.8.31)
- 16) 四宮美佐恵, 安田陽子, 百田由希子他: 大学生が受けてきた性教育の現状と課題?性教育の内容一, 新見公立大学紀要, 39, 65-70, 2018
- 17) 岡部恵子, 佐鹿孝子, 大森智美他: 大学生の認識をもとにした高等学校における性教育の現状と課題, 母性衛生, 50 (2), 343-351, 2009
- 18) 松岡真理子, 入谷仁士, 山梨八重子他: 高等学校における性教育に関する一考察-高校生とその保護者を対象とした意識調査一, 熊本大学教育実践研究, 29, 77-86, 2012
- 19) 前田絢子, 工藤里香, 兵藤絵美: 高校教諭の"性に関する教育"への思い・意識に関する文献検討, 京都橘大学研究紀要, (45), 199-208, 2019
- 20) 青柳直子: 高等学校における保健学習の現状と課題, 茨城大学教育実践研究, 34, 123-130, 2015

助産師が性教育で生徒に伝えたい思い

表 1. 助産師が性教育で生徒に伝えたい思い

カテゴリー	サブカテゴリー	代表的なコード
命の尊さ	命の尊さ	生まれるとか生まれない命もあるから、そういう経験がある中での若い世代に向けての命の尊さとか、専門的に、今ここにある命の個体の重要性とか、今すごい奇跡の中で自分たちは生きているとか、なんかやっぱりそういうことは現場で培ってきた経験は生かされていると思う。
	子どもが幸福になること	この時期っていうのはこんなに小さいけど心臓もあって脳もあって手もあって足も全部あるんだよ、でも初期中絶ってこの時期までにしないといけないんだよ、その命をどう思うっていう意味でその媒体を使っている。 私の中では、なぜ私たちは生まれてきたのっていうところからいつも入るんだけど、私は幸せになるために生まれてきたと思うって言うんですけど、これには賛否両論あるので、それぞれ価値観は違うからなんだけど。 なんで性の話をするかという、やっぱり自分たちが幸せになるために性の話をしていかなければいけないってなった時に、それじゃあ幸せになるためにはどうしないといけないかっていうのを関連図みたいに書いていく。 自分を大事にして、自分を大事にしないと他の人を大事にできないからということは何回か言うかな。
	他の人を大事にすること	区別はしてないけど、自分も他の人たちも、周りにも大事にできるような力を育てたい。 やっぱり性って最終的には子どもたちの幸せであったり、子どもたちを守るためになってくるから、そこにはいろんな人たち、いろんな所属からアプローチをかけている。やっぱり、自分で自分の心を守ったり、自分の体を守ってなった知識がないと守ることはできないし、相手を守ることできない。
	自分の体と心を大事にすること	こんな考えもある、あんな考えもあるけど、大事なことは自分を大事にすることだよとか。 心の違う一人一人が自分の体と心がとても大事っていうことを落とさないで、性行動の性の部分にはならないから、そこはやっぱり学校としても大事にしたいし、基本的には私も大事にせんといかんと思っとったから、それは納得してる。
	思春期の性	反抗期って自分でどうしていいかわかんないとか、親に口答えしたりとか、訳が分からんわけだが 大人ってそういう媒体を使えるのが大人で、多分子どもはそういう手段を知らないから、悩んだり、葛藤したり、反抗したりとか、どうしたらいいのかわかんないのモヤモヤとした気持ちをぶつけられないからそれが反抗期として現れるわけ。 だから、そうやって考えることが大切だし、性の一部だから、決して性のことを話すのはタブーじゃないし、みんなと話したらいいんだよってことを話してるかな。 その子に合った特性やその子にあった個性があるから。
思春期の性と特徴	思春期の特徴	1年生なので体のことを何回言ってもらってもいいですと保健の先生に言われていて、授業でただでは覚えられない、第二性徴のこととか月経初潮の話は何回言ってもらってもいいですって言われたから、そういう基礎知識を盛り込んでいます。 中学校1年生とか3年生これから高校になるとか、大体1年3年が多いんだけど、そういう体が凄く変わっていつの第二性徴と付き合っていないといけない、心の成長のバランスの悪さみたいなところを、やっぱり伝えてあげないと、その次から性行動が、だから、まずはやっぱりそこかなと思ってる。
	体の多様性	「世の中にはいろんな人がいるんだよ。でも、困ってないよ。でも、本当に困っている時にはその人たちがそう言うから、その時には手伝ってあげてね。」っていう風に話を持っていけば多様性の話については小さい時から出来る。
心と体と性の多様性	心の多様性	それに心と体の話が入ってくるんかなって言うのはひとつかな。 例えば精神科の先生だったら子どもが学校に行けないだとか、性教育って体のことばかりじゃないから、心のこともある。 いろんな大人がいるっていうのを伝えていきたい。
	性の多様性	男女一緒に全部話している。 色んな選択肢があるから、全部間違いじゃない。 自分も多様性の中の一人。 たまたま私は、助産師になっただけ、なりたくてなっただけ、そういう人生もあるけど、たまたま結婚して子どもがいたけど、たまたまパートナーが男性だったから子どもができたけど、そうじゃない人もいるから、それも間違った人生じゃない。そういう話をしている
	自分で考え解決して行動する力	本当に小さな集団でそういうことが起こるから、世の中そんなもんじゃないよって、あなたは本当に多様性の中の一人だよっていうのを知ってほしいなと思う。 自分で考えて行動できるって言うのがやっぱり性の話をする上では必要な。 自分で決めて自分でこうしないといけないっていうのを考える力を養ってもらいたいよいつも子どもたちに伝えている さっきいった性感染症だったり、望まない妊娠がある、そのためには自分がどう行動とらないといけないっていうところに結び付けるようにしている。
性に関する専門知識	性感染症や中絶も難しいよな。 やっぱり性感染症になる確率が高くなるじゃん。そういう話をしたりだとか。 基本的に妊孕性の話はするんよ。やっぱり結婚適齢期とか妊孕性が妊娠して出産する時期が備わっているよという話をするんだけど、最初から中絶とか感染症ってさ、言ったらあれだから、セックスは何のためにするのかという話も持ち出すんよ。 そういうことだよ、全部繋がってくる。ライフサイクルとかライフステージに。 私たちがご飯を食べます、人を好きになります、寝ます、起きます、将来何をやりたいかとかいろいろ考えるじゃん。それって生活の一部だし、性もその延長線上にあるもの。 性は生活の一部だよっていうお話をさせてもらってる。 それは絶対に性が隠れているわけだから、それも生活の一部だから悪い事じゃないよって話をしているよ。 要するに性は、性教育は生き方とかね、生きるための話だから、そこは絶対に外したらいけないとは思ってる。 子ども達にも働きかけをしたいし、本当に自然にナチュラルに性について正しい知識を持っておくっていうのは大事だなと思っているから、助産師としてどうこう言うのは、私自身ないんだけど。 特に小学生なんかに向かって言うときには、やっぱりレイプは絶対許さんよみたいな。(中略)お母さんと中絶に来られた経験があるから、そういう経験を踏むと、そんなことは絶対させたくないし、してはいけないことだと思うから、そうならないためにプロセスをしっかりと理解して自分の体を守ってねということ伝えていられると思っている。 自分の体について正しく知っておくことだよとか。	
生きていくために必要な知識と力	生活の一部としての性	
	生きていくために必要な知識と力	